

【ESD実践】 東大寺万灯供養会ボランティア 活動報告書

報告者 奈良教育大学 吉川俊美、谷垣徹

1. 日時 平成29年8月15日(火) 17時30分～23時
2. 場所 華嚴宗大本山東大寺 大仏殿
3. 参加者 修士2回生 辰巳太基 (理科教育) 春日千鶴葉、栗谷正樹 (社会科教育)
学部4回生 谷垣徹 (英語教育)
学部2回生 坂本和音 (英語教育) 宇都宮怜奈 (数学教育)
学部1回生 田中志乃 (美術教育) 下原舞、櫛乃里花 (英語教育)
中村理香子 (心理学) 久武志登、山崎万萌子、橋渡みのり (書道教育)
科目等履修生 今中由美子
本学職員 吉川俊美(次世代教員養成センター研究員)、樫原正巳(日本ESD学会事務局)
近畿ESDコンソーシアム現職教員 新宮済(平城小)、中澤哲也(平郡北小)
島俊彦(郡山西小)、河野晋也(奈良教育大学附属小)

4. 活動支援内容

8月15日の夜、東大寺大仏さまに多数の灯籠をお供えする万灯供養会に、本学から学生14名、現職教員4名、本学職員2名の計20名がボランティアとして協力する機会を得た。当日、願いと祈りが込められた約2600基の灯籠を設置し灯芯に点火する等の準備作業(17時30分～)、当日受付灯籠の製作や各持場での受付・案内・札受・警備等の役割(19時～22時)、および灯籠撤収等の後かたづけ(22時～23時)に従事させていただいた。



約2600基の灯籠を並べて点火する様子

今回のESD実践ボランティアを通して感じたことを、以下の2点で振り返りたい。第1に古都奈良での学びについて、第2に奈良教育大学と東大寺との関わりについて。

第1の古都奈良での学びについてである。今回のボランティアは奈良教育大学の学生にしかできない経験であり、ここ奈良で学ぶことができることは素晴らしいことだと感じた。本学は3つの特色の1つとして『奈良・世界遺産』を生かした教育・研究の充実』をあげている。この経験はまさにこの特色そのもので、文化遺産を通したESDに関連して非常に有意義な学びの機会であった。

第2の奈良教育大学と東大寺との関わりについてである。万灯供養会のボランティアの機会を与えていただいたのは今回が初めてであるが、同じく東大寺では昨年度より、夏休みに行われる2泊3日の「東大寺寺子屋」に本学学生が関わっており、今年も学生との協働で準備が進められているところである。東大寺の方々やその他関係者の方々から、本学学生の関わりを高く評価していただいております、今後もこのつながりを大切にして関わらせていただきたい。

時折降りしきる雨の中での作業となったが、堂内高らかに読誦される華嚴経を耳にし、灯火に浮かび上がる大仏様のお顔を目にしながら作業をさせていただき、盂蘭盆の最終日に御先祖の供養となった思いがした。



万灯籠を並べた大仏殿参道